

14079: 特願 2015-108708

文字列入力装置

●文字列を入力するための利用者の負担を抑制

①技術分野

本発明は、利用者の口の形状を基に、文字を検出し、文字列を入力する文字列入力装置に関する。

②発明の背景と目的

従来（特開2011-186994号公報）の装置は、携帯電話機への適用を想定したもので、子音の文字を入力するために、テンキー（10個のキー）を操作する必要があり、表示された候補単語のリストから単語を選択する際には、選択キーと確定キーの操作を要する。従って、特許文献1の装置は、複数のキーを操作する必要があり、手指に障害が有る者にとって負担が大きい。

本発明は、かかる事情に鑑みてなされるもので、口形を基に文字の母音成分を検出し、利用者の負担を抑制して文字列を入力する文字列入力装置を提供することを目的とする。

③発明の構成と効果

利用者Pの口形を撮像する撮像手段11と、撮像された画像23を基に求めた口形に対応する母音成分を、被検出母音成分として導出する母音検知手段12と、複数の文字列が予め登録された文字列データベース13から、母音成分が被検出母音成分である文字からはじまる文字列を選出する文字列選出手段14と、選出された文字列について、順次、文字列の一を入力可能な項目に指定するオートスキャン手段15と、入力可能な項目を表示する表示手段20と、外部から操作される入力手段18と、入力可能な項目に指定されている文字列を、外部から入力手段18への操作によって、入力情報として確定する確定手段16とを備える。

入力手段に、文字列を入力情報として確定するための1つの釦（キー）を設け、利用者によるその1つの釦のみを操作させることで、文字列の入力を行うことができる。従って、利用者は、文字列を入力するために複数の釦を操作する必要がなく、文字列を入力するための利用者の負担を抑制可能である。

